

朝日新聞 2021年7月5日 「声～若い世代」への投稿掲載

(令和2年度入学) 高校2年(六か年コース) H組 桂林 蒼大 君

日常生活の中で、故意にウソをつくことがある。もちろん、重要な場面で行く罪の重いウソとは違う。友だちとのいい関係を崩さないための軽いウソだ。例えば、その場の空気を和ませるためや、本当は苦手なものをももらった時には、相手が気を悪くしないように喜んで受け取ることなど、その場に合ったウソも必要だと考える。

しかし、大事なものは信頼性だ。普段からウソばかりついていると、相手は耳を傾けてくれないだろう。ウソと信頼という相反するものを両立するにはバランスが必要だ。

真実のみの世界になればこの上ないだろうが、それでは住みにくい日常を余儀なくされる気がする。

本当に大事な場面でウソをつくことはあってはならないが、ユーモアのある必要最低限のウソをうまく使うことも必要ではないだろうか。